

令和 3 年 5 月 14 日現在

機関番号：16401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2020

課題番号：18H05764・19K20956

研究課題名(和文)スウェーデンのSocial Pedagogy研究 「福祉的教育者」の構想

研究課題名(英文)A Study on Social Pedagogy in Sweden

研究代表者

松田 弥花(Matsuda, Yaka)

高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・助教

研究者番号：20824171

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本における教育福祉の実践の担い手のあり方を構想するため、スウェーデンにおけるSP(Social Pedagogy)の理論構造及びSPの専門職であるソスペッド(Social Pedagogue = Soc-ped)の専門性を、教育的観点から原理的・実証的に解明することであった。福祉国家体制維持の困難や社会の分断などの課題に直面しているスウェーデンにおいて、人びとの社会参加の促進を实践の一つの目的とする教育福祉の観点を有するソスペッドは、近年、学校での雇用が進んでいる。分断しがちな移民が多い地区の学校において、ソスペッドは児童や教職員の集団づくりに貢献していることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学校の他専門職とソスペッドに対するインタビュー調査を実施し、医学的・教育的・個人的・集団的という4つの視点で比較検討を行ったところ、ソスペッドはいずれの視点も広く把握し、各専門職をつなぐネットワークのハブ的な存在であった。ソスペッドの理論的基盤であるSPの幅広さを現し、日本の社会教育研究にとっても示唆的である。特に「社会教育士」活用の場面として学校が考えられ、その際の実践事例としても参照できる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to clarify the theoretical structure of Swedish social pedagogy and the expertise of social pedagogues from the pedagogical perspective in principle and empirically, to shape or create a professional that is specialized in "social work and pedagogical practice" in Japan. Sweden is facing social issues on the welfare system and social division, and challenging to address those issues. One example of the challenges has been focused on this research, in which hiring social pedagogues in compulsory schools. In this study, a social pedagogue who is working in a multi-cultural school has been studied to clarify the role of the social pedagogue in a school through analyzing and comparing it to the other professions in the school. One of the biggest roles could be said that social pedagogue has both social(work) and pedagogical aspects and contributing to building an inclusive learning environment and also being a "hub" of the network between the staffs.

研究分野：社会教育・生涯学習

キーワード：社会教育・生涯学習 教育福祉 Social Pedagogy Social Pedagogue スウェーデン 北欧 参加

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

現代日本社会において、うつ病や発達障害、引きこもり、貧困など生活上で困難を抱える子ども・若者・成人は増加傾向にある。教育領域では、このような社会的課題はあまり着目されてこなかったが、近年は教育と福祉の融合が進みつつあり、以上の課題に対する取り組みが増えている。しかし、成長を望む「教育」とケアが一義的な「福祉」の間に生じる課題も表出してきている。人びとが抱える社会的課題に対する領域横断的な取り組みが増加している中で、学校内外における多様な教育福祉的実践を支える理論的基盤の構築が求められる。

本研究で着目するスウェーデンの SP (Social Pedagogy=socialpedagogik) は従来、社会福祉における教育的一側面として捉えられてきた。ただしその捉え方では、Social “Pedagogy” が有する教育学的価値が揺らぎかねず、SP の専門職として教育福祉的実践を担うソスペッド (social pedagogue =socialpedagog : soc-ped) の専門性が担保されない。SP は、社会福祉の一部にとどまらない幅広い概念であり、社会福祉との違いを解明し SP の独自性を追究する必要がある。

これまでの SP 研究では、SP が社会福祉に吸収されつつある状況に対して、SP の独自性を見出すことがされてこなかった。本研究は、SP の教育学的意義に着目し歴史・原理を問い返し、さらに近隣領域との比較検討を行い SP の独自性を見出そうと試みる点に学術的意義があると言える。

他方、日本における社会的課題に鑑みれば、多様な教育福祉的実践を担う専門職の存在が不可欠であり、本研究は将来的に、教育福祉的実践を担う専門職の確立に資することを目指している。そのためには、専門職の基盤となる理論の構築及び、専門職の専門性を明確にする必要がある。その手がかりとして、スウェーデンにおける教育と福祉を横断する SP の理論とソスペッドの実践を総合的に検討する点に社会的意義を見出すことができる。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本における教育福祉的実践の担い手のあり方を構想するため、スウェーデンにおける SP の理論構造及び SP の専門職であるソスペッドの専門性を、教育学的観点から原理的・実証的に解明することを目的とした。

## 3. 研究の方法

研究 1 として、社会福祉の教育的側面として位置づけられがちな SP の理論的独自性を追究するため、なぜ社会福祉に吸収されたのか、また、なぜ近年再注目されるようになったのか、歴史的・社会的・文化的文脈との関係に焦点を当て、史料・資料分析及びインタビュー調査を行った。その際、社会構造変容と SP の関係性に着目し、分析を行った。

研究 2 として、ソスペッドの専門性を明らかにするため、学校における専門職間の比較分析を行った。近年、スウェーデンの学校では、教員や学校看護師、SSW/SC、特別支援教育教員、学童保育士、進路カウンセラーとは異なる役割でソスペッドの配置が進んでいる。学校におけるソスペッドの役割と、持ちうる専門性を検討するため、他専門職とソスペッドに対する半構造化インタビューを実施し、得られたデータの比較を行った。

## 4. 研究成果

### 研究 1：SP と社会構造の関係性の解明

研究 1 について得られた知見として、SP は教育学を基盤とした教育福祉的領域であり、人びとの相互な学び合いによって共同体を再構築することを志向する要素を持つことが挙げられる。1960 年代から福祉国家として急速に発展したスウェーデンにおいて、社会政策の整備と共に社会福祉実践の担い手の充足が急務となった。その担い手として位置づいたのが社会福祉士 (socioonom: ソシオノム) であり、実践を支える理論として社会福祉が学問として政策的に位置づけられた。その際、社会事業の側面を有していた SP は、社会福祉の一側面として位置づけられ、ソスペッド養成課程はソシオノム養成課程に統合され、結果的に SP 教員／研究者の減少につながった。近年、改めて SP への注目が集まっている背景として、20 世紀に構築された高福祉国家体制の揺らぎに伴う、相互扶助や「自立」への関心

の高まりが考えられる。人びとの学びと参加促進を実践の大きな目的とするソスペッドは、社会制度にのみ依存しない生活を支える実践を行っており、その実践の基盤となる SP は、「福祉社会」を支える重要な概念として再考されていると考えられる。

### 研究2：ソスペッドの専門性の検討

研究2について得られた知見として、ソスペッドは医学的知見、福祉的知見、教育学的知見を幅広く有し、その知見をもって子どもや教職員の集団づくりを行うことによって包摂的な学校づくりに貢献していることが挙げられる。学校における他専門職との比較を行ったところ、学校看護師や言語療法士は医学を基盤とした個別対応が多く、教師や学童保育士は教育学を基盤とした集団対応が多い。特別支援教員は教育学を基盤とするが個別対応が多い。他方、進路カウンセラーは社会学を基盤に個別対応を行い、スクールカウンセラーは「社会福祉学」を基盤とし個別対応を行う。ソスペッドは、SP（教育福祉）を基盤とし、個別及び集団両者の対応を行う。以上のことは、図1のような仮説が導かれた。矢印は、現状に対し各専門職が望む実践の方向性を表している。

ソスペッドは学校において、児童と個別の関係を築きつつも、分断が生じにくいよう集団形成を行う。さらに、幅広い知見を有するため、教職員間のネットワークの「ハブ」的な存在としても位置づいている。ソスペッドは、人びとの関係づくりに長けており、関係をつくる過程で生じる学びをサポートする専門性を有していると言える。

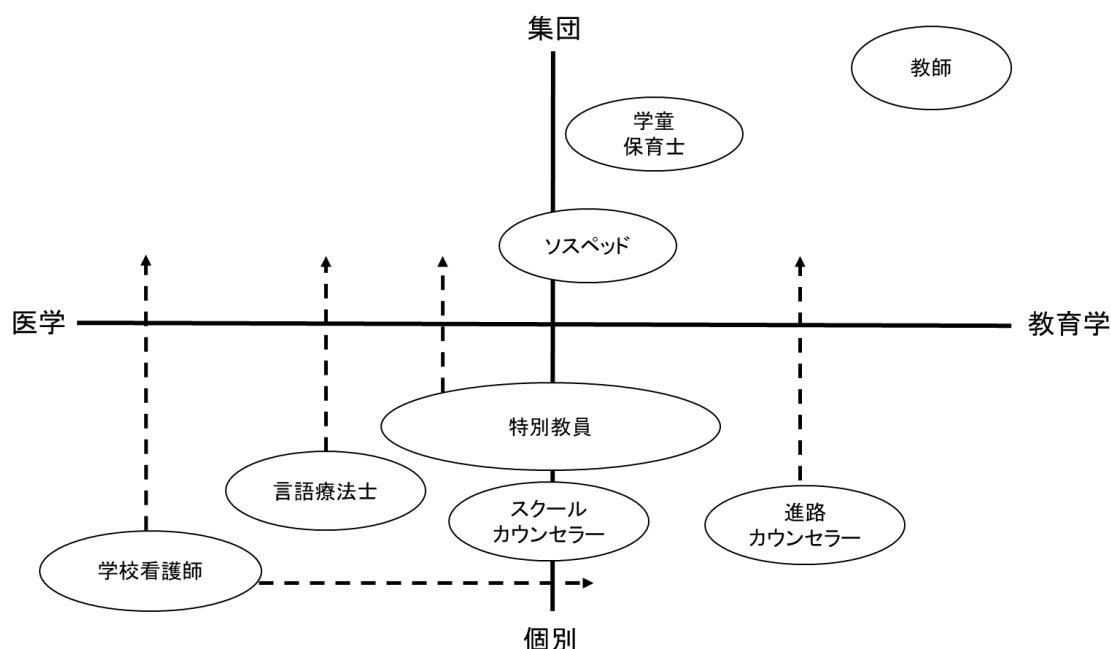


図1：学校における各専門職の位置づけの仮説（未発表）

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Ulf Fredriksson, Kanako N. Kusanagi, Petros Gougoulakis, Yaka Matsuda, Yuto Kitamura	4. 巻 12(3)
2. 論文標題 A Comparative Study of Curriculums for Education for Sustainable Development (ESD) in Sweden and Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 松田弥花	4. 巻 80
2. 論文標題 スウェーデンの基礎学校におけるSocial Pedagogue配置の意義 「インクルーシブ」の観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学教育学部研究報告	6. 最初と最後の頁 301-311
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松田弥花・是永かな子	4. 巻 2
2. 論文標題 E県立知的障害特別支援学校における自立活動に関する現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学学校教育研究	6. 最初と最後の頁 115-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松田弥花	4. 巻 62
2. 論文標題 スウェーデンにおけるソスベッド（Social Pedagogue）養成課程に関する考察 高等教育機関のカリキュラム検討を通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本の社会教育	6. 最初と最後の頁 151-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田弥花	4. 巻 79
2. 論文標題 1900～1930年代のスウェーデンにおけるSocial Pedagogy論議 「教師マガジン」と「子どもと若者 北欧SP雑誌」を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高知大学教育学部研究報告	6. 最初と最後の頁 267-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Basic Goran, Matsuda Yaka	4. 巻 56
2. 論文標題 Inclusion and obstacles in the Swedish social pedagogical context: an analysis of narratives on working with unaccompanied refugee minors with wartime experiences in institutional care	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Croatian review of rehabilitation research	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 草薙佳奈子, 松田弥花, 佐藤真久	4. 巻 1
2. 論文標題 VUCA社会における参加と変容を促すESDアプローチ: スウェーデンの民衆教育と社会的学習の事例研究から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Working Paper Series in United Nations University Project "Reinforcing Societal Resilience by Promoting Education for Sustainable Development (ESD)"	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田祥代, 是永かな子, 松田弥花, 本所恵, 渡邊あや	4. 巻 16
2. 論文標題 インクルーシブ教育からみた義務教育から後期中等教育への移行とその支援 フィンランドの取り組みと課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Yukiko Sawano, Miyuki Ohta, Hiroki Sato, Kanako Korenaga, Yaka Matsuda, Noriko Hasegawa
2. 発表標題 Comparative Studies on Recognition of Outcome of Various Lifelong Learning -- Searching for Effective Policy Linkage Structure
3. 学会等名 World Educational Research Association: WERA2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yaka Matsuda, Kanako Korenaga, Tomomi Sanagi, Aya Watanabe, Megumi Honjo, Sachiyo Ishida
2. 発表標題 Comparative Study on Inclusive Education in Upper Secondary Education in the Nordic Countries
3. 学会等名 The Nordic Educational Research Association: NERA 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ulf Fredriksson, Petros Gougoulakis, Yuto Kitamura, Kanako Kusanagi, Yaka Matsuda
2. 発表標題 Education for sustainable development: a comparative study of school curricula and education policy in Japan and Sweden
3. 学会等名 Comparative Education Society in Europe (CESE28) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Petros Gougoulakis, Ulf Fredriksson, Yuto Kitamura, Kanako Kusanagi, Yaka Matsuda
2. 発表標題 Education for sustainable development: a comparative study of schools in Japan and Sweden
3. 学会等名 Comparative Education Society in Europe (CESE28) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田 弥花
2. 発表標題 スウェーデンにおけるソスペッド (Social Pedagogue) の専門性
3. 学会等名 日本比較教育学会第54回研究大会 (ラウンドテーブル)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田 弥花
2. 発表標題 スウェーデンにおけるソスペッド (Social Pedagogue) の専門性に関する研究 ソーシャルワーカーとの比較から
3. 学会等名 日本社会教育学会第65回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yaka Matsuda
2. 発表標題 Lifelong Learning System in Sweden and Japan
3. 学会等名 2nd Stockholm-Tokyo Workshop, Workshop on Sustainable Development: Multidisciplinary collaboration for sustainable development (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 北村 友人、佐藤 真久、佐藤 学	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 304
3. 書名 SDGs時代の教育	

1. 著者名 松田武雄、松田弥花、上野景三、宮崎隆志、丹間康仁、大村隆史、李正連、肖蘭、河野明日香、藤村好美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大学教育出版	5. 総ページ数 204
3. 書名 社会教育と福祉と地域づくりをつなぐ 日本・アジア・欧米の社会教育職員と地域リーダー	

1. 著者名 松田弥花	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 168
3. 書名 特別支援教育（是永 かな子、尾高 進）第1章1.5、特別支援教育と特別ニーズ教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スウェーデン	Stockholm University			
スウェーデン	Linnaeus University			